

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3870201153
事業所名	グループホームひまわりの家
(ユニット名)	えがお
記入者(管理者)	
氏名	和田京子
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、専門職としての誇りと責任を持ち、最良の介護サービスを提供します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの通い合う暮らし ・笑顔あふれる暮らし ・あたり前の暮らし 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①介護計画を反映出来る様介護記録と同じフィルに計画書を綴ると記録が書きやすくなった。7/1タブレット(ケア樹)で記録打つようになる</p> <p>②玄関に掲示板を置きお知らせコーナーを作り職員の移動、お便り、などわかりやすく家族さんに伝えることができた。</p> <p>③会議での内容を掲示板に掲示し、見ていただくようにした。以前に比べて推進会の内容を伝えることができた。家族に声掛けしながら一人ずつではあるが、参加してもらうことが出来た。</p> <p>④家族の面会時に外部評価の結果を伝えるようにした。</p> <p>⑤地域の防災士の会合に参加し、連携をとっていたが、コロナ感染予防の為に、今は中止となっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>平屋の事業所の隣地には畑や果樹園を造り、利用者と一緒季節の野菜や果実の収穫を楽しんでおり、利用者は一年中季節を感じる事ができる環境にある。職員は新鮮な食材を使用した手作りの料理やおやつが出されているほか、日常的に毎日の散歩や入浴などを楽しみながら、利用者にとって事業所理念にも掲げている「笑顔あふれる暮らし、あたり前の暮らし」の実現に向け、職員一丸となって取り組んでいる。木製のテーブルやいす、手作りの表札などが事業所内外に見られ、温か味を感じることができた。また、訪問調査時には、玄関前のテーブルで家族と利用者のおやつを食べながら、ほのぼのと会話を楽しむ光景を見ることもできた。目標達成計画に掲げた取組みや利用者や家族等から出された意見など、サービスの向上と理念等の実現のため、事業所として積極的に対応や取り組みができています。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	一人ひとりの思いや希望、意向を日常の会話の中でさりげなく聞きだしている。その内容を申し送りや本人のケアプランに取り込んでいる。	○	/	◎	日常会話の中から、職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向などの話に耳を傾けて把握し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	意思疎通が困難な場合、本人の表情を見たり生活歴から検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族や知人が面会に来た時には、昔のエピソードやその頃の気持ちなどを聞きだし、今の思いに反映して考えている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	本人の言動、気持ち等を職員間で共有しケアプランの中に入れていくようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	職員間の情報等を取り入れながらミーティング時に話し合いをしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族等から情報を聞き取り、記録したり、暮らしの情報のシートに記入して把握に努めている。	/	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族のほか、入居前担当していた介護支援専門員などから生活歴や暮らし方、こだわり、大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過などを聞いている。入居後に新たに把握した情報は、アセスメントシートに追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活の中や定期的なアセスメントシートを用い出来る事、出来ない事の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	不安になったり、不安定な時の状況を把握しみんなで話し合っている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	毎日の申し送りや月1回のミーティングで話し合い、対処方法等を検討、共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録や計画書の中から24時間の生活の流れを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	これまでの暮らしの情報を参考にしたり、新しい情報を取り入れながらミーティング等で話し合っている。	/	/	○	職員は把握した情報をもとに、月1回実施するミーティングやカンファレンスの中で、「利用者が何を求め、必要としているのか」を利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	その都度必要時と月一回のミーティングで話し合い、検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を見いだす為に、日々の申し送りで話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から聞き取りをしたり、表情から読み取り本人らしい生活を支援できるように作成している。	/	/	/	利用者がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、職員は事前に利用者や家族、主治医から意見や要望を聞き取り、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	アセスメントと個別ケア記録をもとにしたし、家族さんの意見を取り入れながら作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	体調をみながら、できる限りこれまでの生活と同じ過ごし方ができるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	常勤の看護師を置き、利用者さん一人一人の健康状態を把握し家族の意向を聞きながらチームで話し合いをしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握し、介護記録に残している。	/	/	◎	事業所では、利用者一人ひとりの介護計画を1冊のファイルにまとめ、常に確認できる場所に置いて職員間で共有している。「介護計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったか」を職員は介護記録の中に記録を残し、日々の支援につなげている。職員は利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子や支援した内容を、介護記録やバイタルチェック表、排泄チェック表などに個別に記録している。また、職員の気づきや工夫、アイデアなどは、個別にグループホーム日誌に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録した内容を元にミーティングで評価し、日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の様子等を介護記録に個別に記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ミーティング等で気づきや工夫、アイデア等を話し合いた事を記録している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に一回、見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。新たな要望や変化が見られない場合も、職員は月1回利用者一人ひとりの現状を確認している。退院後などには利用者や家族、主治医を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のミーティングで評価を行い、スタッフ間で現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院後や心身の状態が変化した場合、必要に応じて家族や関係者と話し合い、新しい計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月一回はミーティングを行い意見交換をし、記録を残し、緊急案件がある場合は、その都度会議をしみんなで共有している。	/	/	◎	事業所では、課題解決するために月1回ミーティングを実施している。緊急案件がある場合には、その都度、朝・夕の申し送り時などを活用して話し合いをしている。参加できなかった職員は、ミーティング議事録を確認して押印をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	各利用者の担当を決め、前もって話をする内容を会議までにまとめておいてスムーズに話し合えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	日時、場所は事前に定め、周知し、研修手当ての支給により、会議、研修の重要性の理解をはかり、参加を促している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	参加できなかった職員はミーティングノート必ず確認しサインをしてもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	申し送りで伝達し確認ができるようにしている。確認サインももらっている。	/	/	◎	職員はグループホーム日誌に伝達事項を記録を残しており、確認後には職員全員が押印することで情報を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員の交代時には必ず申し送りをしている。個々が申し送りの記載を確認している。確認サインももらっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中でしたいことを聞き出し、家族に相談したり会議で検討し計画をたてながら叶える努力を行っている。	/	/	/	職員は様々な場面で利用者へ選択肢を提示し、おやつや飲み物、散歩のコース、レクリエーションなど選んでもらう機会や場面をつくっている。利用者の好きな昔の話をしたり、体を動かすゲームやレクリエーションをしたりする場面において、職員は利用者の活き活きとした言動や笑顔を引き出すことができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洋服を選んだり、おやつやレクリエーション等で本人が好むものを選ぶことができるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人に確認しながら、物事を進めている。迷いがある場合は職員が寄り添い支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	大まかなホームの流れがあるが、利用者個々の生活リズム及び習慣を大切にしている。一人ひとりのペースに合わせ、無理強いないように気をつけて支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人が好む事・できる事・役割見つけ出ししながら、いろいろなことに挑戦してもらっている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難の人には、日ごろの表情や行動等から観察し支援出来る様になっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内外の研修に参加し、職員間で常に意識し合っている。	◎	○	○	年1回法人内で倫理やプライバシーの保護、権利擁護などのテーマに取り上げ研修を実施している。参加した職員は、ミーティング時に研修内容を伝達して、職員間で情報を共有している。トイレ誘導時に、職員は利用者の耳元でさりげなく声かけをすることができている。職員は利用者の各居室を専用のプライバシーの場所であることを理解しており、居室への出入り時には必ずノックや利用者へ声かけている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	必要に応じ、利用者本人だけが分かるように側で対応し、誘導や声掛けに配慮している。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	◎	さりげなくトイレに誘導したり、入浴時外から見えないような工夫をし羞恥心への配慮をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	利用者のプライバシーを大事にし、居室への出入りには必ずノックや声かけを行っている。入室時には原則、利用者と一緒に入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ミーティングや研修で重要性を理解し遵守している。書類等の持ち運びにも注意している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	食事の準備、後片付け、配膳、下膳、洗濯取り込み、干し畳みなどの家事を助けてもらっている。昔からの風習、習慣を教えてもらっている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握しており、状況を見て席替えをしている。トラブルになりそうな場合には、職員が利用者の間に入るなどの気配りをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が日々の生活の中、助け合い支え合う大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	席の配置、外出時やレク時のグループ構成など、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しそうな利用者には職員が間に入りコミュニケーションを取れるようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった場合、その都度お互いの話を傾聴し、解決出来る様になっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に情報を収集したり、日々の会話の中で情報を得るようにしている。一人暮らしの場合、家族等が把握されていないことも多く、本人からの聞き取りのみになっている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	馴染みの関係や場所を聞き取りしているが、同居家族は詳細に聞くことができるが、独居の利用者は本人、家族等から聞き取り把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族との外出の際に、馴染みの場所や家に帰ることが出来るよう支援している。この4月よりコロナ感染予防の為に為に家族との外出は控えている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室でゆっくり過ごせるよう、居心地のよい環境作りを努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	すべての利用者が1日一回は外にでれるように、散歩や日光浴をしたり、天気の良い日はドライブや買い物などに行けるようにしている。重度の人も車椅子で散歩をしたり、室外に出て日光浴をしている。	◎	○	◎	日頃から雨の日以外は、利用者と一緒にコースを決めて散歩したり、中庭でお茶会をしたりするなど、職員は利用者が戸外で過ごせるよう取り組んでいる。また、車いすの利用者も一緒に散歩や日光浴をすることができている。家族の協力を得ながら、利用者の希望する外食やお墓参りなどに出かけられるよう支援しているが、現在はコロナ禍のため、家族との外出は自粛している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ボランティアの方に散歩の支援をしてもらっている。現在はコロナ感染予防の為ボランティアによる支援を得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	天気の良い日は、外の空気を感じてもらうように、散歩や日光浴をしてもらっている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族と一緒に買い物や外食、お墓参りに行かれている。本人さんが行きたいところを家族さんに伝えて、可能な限り連れて行ってもらっている。現在コロナ感染予防の為家族との外出ができていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	全職員年一回は認知症研修を受講し、学びを深めている。ミーティング等で個別ケアについて検討し、不安や不穏な行動を軽減できるようなケアを統一している。	/	/	/	入浴やレクリエーション時など、職員は利用者のできることは時間が掛かっても、極力手や口を出さない見守り支援をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	内部・外部研修の受講により、知識を習得に努めている。個々の利用者さんの状態を把握し維持、向上できるようにプランにも反映させて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人のペースを大切にできること、できそうなことを見守り、意欲の向上につながるように声掛けしている。(日常生活動作、家事動作・レク作業等)	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	個々の性格や出来ることを活かし、色々な作業に参加してもらいながら、本人の出来る役割を見つけ出している。	/	/	/	玄関周辺の掃き掃除や水撒き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえなど、職員は利用者一人ひとりが楽しみながら役割や出番をつくる取り組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々できることをみつけ、日常的に取り入れて楽しみややりがいのある時間をすごしてもらう工夫をしている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事に参加して、楽しみを持ち、交流を深めている。現在コロナ感染予防の為出来ない。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の好みを知り、その人らしい身だしなみを把握している。				食事の時に、職員は利用者の気持ちに沿ってエプロンを使用せず、タオルを膝に置き、食べこぼしで服が汚れないよう配慮している。衣服が汚れた場合には、職員は利用者にとりげなく声をかけて居室へ移動してもらい、着替えをしている。車いすの利用者も、家族と一緒に美容室へ出かけたり、好みの衣服を持ってきてもらったりするなど、整容やおしゃれの支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	本人の持ち物は、以前より使っていた物や好みものを準備している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	以前から身に着けていた物や家族が準備した物を持参している。職員と一緒に選ぶようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	前もって行事を伝え、家族がTPOにあわせて服を用意したり、職員が本人と一緒に選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	着衣の乱れ、食べこぼし、口の周囲の汚れ等は、本人にさりげなく声をかけている。着衣の汚れは、別室で着替えるよう支援している。	◎	◎	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	家族に依頼して以前からの馴染みの美容院へ連れて行ってもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	日中は洋服で過ごせれるよう、着替えてもらっている。整容の方はできる限り家族さんが連れて行ってきている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	楽しみながら食事が出来るよう支援している。その中で、なるべく自分のペースで自力で食べれるように支援している。				事業所では、職員が利用者の好みや旬の食材などを取り入れ、献立を作成している。食材は業者に配達してもらい、職員が調理をしている。食材の下ごしらえや後片付けは、利用者と一緒にしている。お皿以外は、利用者や家族に使い慣れたものを持ってきてもらい、使用している。食事中には、必ず1名の職員は利用者のそばに寄り添いサポートをしているが、食事は一緒に食べていない。検食する職員はリビング横の和室で、利用者の様子を見ながら食べていることから、コロナ禍が治まった後には、利用者と同一食卓を囲んで一緒に食べることを検食することを望みたい。職員は重度な状態の利用者も、調理の音や煮物などの匂いを感じ、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりをしている。現在、利用者のアレルギーのある利用者はいない。管理者は、利用者や職員から食事の感想や意見を聞き、栄養面や献立のバランス、食事形態などを配慮することができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	調理の下準備、後片付けなどできることを見守りながらしてもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に手伝ってもらうことで感謝の言葉をのべ、自信や達成感を味わい笑顔をひきだしていく。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	最初にアレルギー等のアセスメントをとっている。嫌いなものや苦手なものは記録してスタッフ全員が把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	利用者の好みを聞きながら、旬の食材を使ったり季節行事の料理を用意したり、その時期を楽しめるようにしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々の食事形態・嚥下状態・健康状態にあわせた調理をしている。また、食器や盛り付け等で、見た目も楽しめるよう工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人が使い慣れたものを用意してもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	職員と一緒に食事はしていないが、フロアに必ず一人は付き、利用者の食事の様子を見守り、サポートしている。一人の職員は必ず検食をしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	職員が調理をしている姿が近くにおい、食事を作っている音や匂いを常に感じれる。献立や食材の話しながら、楽しめるよう配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	毎回、食事・水分摂取量は記録し把握している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量の少ない人には、果物やおやつで補うようになっている。また、水分量の少ない人には、好きな飲み物を用意したり、ゼリーなどで摂取できるようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的な話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	担当職員が献立を考えているが、栄養の偏りが無いように配慮している。新しいメニューなどは、職員全員で共有している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板、包丁など食材により決めている。毎日ふきん等は除菌し、冷蔵庫の食材のチェック・掃除をして衛生面の管理に努めている。手洗いをこまめに行い、エプロンの着用をしている。				

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	月に1回、歯科医師・歯科衛生士による内部研修で、知識を深め、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。現在コロナの為医師からの書面にてミーティングで勉強会を行っている。				週1回歯科医に往診をしてもらい、口の中の健康状況の把握をしてもらっていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため中止している。現在は、毎食後に利用者に口腔ケアをしてもらい、職員が利用者一人ひとりの磨き残しや口の中の健康状況を確認し把握している。歯磨きなどの介助の必要な利用者が2名いる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	週1回、歯科医師による往診があり、必要であれば治療を行っている。現在コロナの為医師の往診中止している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	月1回の、歯科医師・歯科衛生士の研修で、口腔ケアの正しい方法を学び、必要に応じ対応方法や助言などを頂いている。コロナの影響で今は、書面にて助言など頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	声掛け見守りで本人が出来るように支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後、歯磨きの声掛け見守りをし、本人が出来るよう支援している。定期的口の中をチェックしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	往診に来てもらっていたが、今年の4月からは中止にしている。今後コロナの状況を見ながら検討していく				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	定期的な声掛け誘導を行い、トイレで排泄ができることで、達成感が得られ、おむつ使用時の不快感を感じさせないようにしている。夜間のみパット使用されている方もいる				事業所では、利用者が布パンツを使用し、トイレで排泄ができることを基本としている。職員は利用者が入居時や退院時に紙パンツを使用している、一人ひとりの状態に合わせて職員間で検討するほか、家族とも相談しながら布パンツへ移行できるよう支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘による不調や不穏が起こることを把握している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	大体の排泄リズムは把握している。必要に応じ、トイレチェックや排尿排便の記録をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	必要に応じ、一人ひとりの状態に合った支援が出来るよう、職員間で話し合っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	ミーティングや申し送りなどで話し合いながら改善出来る点は改善している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	パターンはトイレチェックで把握し、兆候を表情や行動で把握できるように観察し、早めの声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	基本、布パンツで過ごせれるよう心掛けている。紙パンツやパットを使う際には、きちんと本人・家族に状態を話し承諾を得ている。パットの種類も伝えておく。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着(失禁パンツ)や紙パンツ、パットを使い分けしている。(夜間と昼間のパットも使い分けしている)				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	繊維質の野菜を摂ったり、こまめに水分補給をしてもらう。散歩や体操をして、快適な排便を促す取り組みをしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	毎日入浴可能。3時に降に順次入ってもらっているが、本人の希望や外出された場合、夕食後でも入浴可能。お湯の温度が熱いのが好みの人が先に入ったり、順番も考慮している。	◎		◎	利用者は、毎日15時から入浴することができる。事業所では、利用者の毎日の入浴を可能としている。利用者が日中に外出した場合や利用者の希望した場合には、夕食後でも入浴できる対応をしている。また、利用者の希望に沿った湯の温度や湯船に浸かる長さなどにも、職員はできる限り柔軟に対応している。また、風呂場の入口には湯ののれんが掛けられ、坪庭のある浴室で、利用者はゆっくりとくつろぎながら、入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	2~3人で入浴出来るが、重ならないように配慮しながらゆっくり自分のペースで入れる様に支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	常に見守りしながら、自分でできることは自分でしていただき、できないところのみ介助をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を嫌がる要因を探し出し、その人に合わせた時間帯や声掛けなどに注意して対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックをして状態を把握している。入浴後も水分補給をしてもらい様子観察をしている。				

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の記録から個々の睡眠状態やパターンを把握している。	/	/	/	入居時に、睡眠導入剤を内服していた利用者には、職員が日中の過ごし方や支援内容などを検討し、医師や家族と相談しながら薬の必要がなくなるよう支援している。利用者の日中の活動量を増やすなど、利用者が安眠できるように支援している。現在、服薬をしている利用者は1名のみとなっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の過ごし方を工夫したり、眠りやすい環境づくりなどしている。また眠れない場合は、フロアで職員と過ごしてもらっている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の活動を活発にし、夜間自然と睡眠がとれるようにしているが、睡眠不足が続き、本人の体調に変化が見られるようであれば、医師に相談していく。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人が自由に居室で過ごす時間がある。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	年賀状を出したり、手紙が届いたりしている。電話も希望により対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状などは、自分ができる部分のみしてもらい、できないところは職員が手伝っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば使用ができる。ゆくり話ができるよう電話のそばに椅子用意している。携帯電話を持っている方もおり、自由に居室で使用されている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙は必ず家族に伝えている。返事を書く希望のある利用者には手伝っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力を得ている。必要に応じ家族からの連絡もお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自分で買い物・支払いができる能力の維持と達成感が持てる大切さを理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	定期的に買い物に出かけ、自分で好きなものを買い支払いができる機会をつくっている。コロナの影響の為、現在外出ができていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	ホームにケーキ屋・パン屋の販売が来ている。また、必要に応じ家族と一緒に買い物にでかけている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人の希望により、お小遣い程度の金額を自分で管理してもらっている人もいる。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	基本的にはお小遣いは職員が管理している。使い方については、本人・家族に相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的にはお小遣いは職員が管理している。入所時に、お金の使い方を明確に家族に説明している。おこづかい帳をつけ定期的に確認してもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ニーズの把握に努め、できる範囲で本人や家族の思いに添えるよう柔軟に対応できるよう心がけている。	◎	/	○	遠方の家族が利用者の受診付き添えない場合には、職員が同行受診していたが、現在は家族の協力が得られている。今後、職員は「利用者のニーズの把握に努め、柔軟な支援に取り組みたい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は常に明るく、花や絵を飾ったり工夫をしている。	◎	◎	◎	玄関前の花壇には季節の花が咲き、木製のテーブルや椅子が設置されており、訪問調査日には、来訪した家族と利用者がおやつを食べながら歓談している様子を見ることができた。また、訪問時の玄関は網戸仕様にしており、来訪者には事業所内の様子が見えることもあり、気軽に出入りしやすい雰囲気を感じられる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の飾りものや花等を飾ったり、壁に利用者さんの手作りのものをかけたり、窮屈にならないテーブルやソファの配置を考えている。	◎	◎	◎	玄関には木製のテーブルといすが設置され、花瓶にコスモスが活けてあるほか、松ぼっくりが飾られて季節感にあふれている。ユニット内の廊下には、利用者が手作りした季節の花飾りなどの作品が飾られている。リビングの天井は高く、中庭からの光が入り明るいこともあり、利用者はソファなど思い思いの場所でゆったりと居心地よく過ごすことができる。事業所内には不快な音や臭いはなく、掃除も行き届き、清潔感がある。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、居室・トイレ・フロアの掃除をし、清潔を保っている。汚物の臭いなどにも気をつけている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾ったり、レクの中で季節の歌を取り入れたり、季節の食材を味わってもらったりしている。その時期に合わせた壁画を作成し、展示している。自室で使うカレンダーも自作し飾っている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	各自の居室に自由に訪れたり、みんなでソファにゆったり過ごす場所を工夫している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは声を開けなければしないことを徹底している。脱衣所にのれんをかけ、直接外から見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人や家族と相談し、使い慣れた物を何点か置いてもらい居心地よく過ごしてもらっている。	◎			居室には使い慣れた物を持ち込むことができ、タンスやいすなどを持ち込んで利用できる利用者もいる。利用者が作成したカレンダーを貼るなど、一人ひとりに応じた居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差を少なく、手摺の設置、トイレ等にはわかりやすいように大きく名前を明記している。カレンダーを2か所掲示し、月日が分かるようにしている。			◎	職員は利用者には絵を描いてもらい、各居室の表札は手作りしている。事業所内には、トイレの表示を大きくしたり、引き戸が分かるように「→こちらに引く」と張り紙をしたりするなど、利用者に分かりやすいよう工夫している。居室のタンスの引き出しには収納された衣類が分かりやすいように表記し、利用者が自分で出し入れできるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安やトラブルをまねく物品はスタッフ間で話し合い、家族等に相談し、排除したり、他のもので代用したり工夫をしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者が自分で使用するのに必要な物品(はさみ、ペンなど)は届くところに置いている。本や裁縫道具、掃除道具、新聞など欲しいときに声をかけてもらうとすぐ渡せる場所においてある。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	基本的に、鍵をかけないことを職員全員把握している。自由に玄関の出入りができるように心がけている。	◎	◎	◎	職員は玄関などに鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関とユニットのドアには昼夜問わず施錠していない。駐車場の出入口には来訪者等が分かるようにセンサーを設置し、プザーが鳴るようにしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時の管理者の話し合いで施錠をしないことをなし納得させておられる。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	常に利用者の行動を把握しながら駐車場内では自由で駐車場外に出られた場合はセンサーが鳴るように設置している。その場合は職員と一緒に付き添い近辺を散歩している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に入手した情報を職員間で確認しあい共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	朝、入浴時のバイタルの記録、食事水分排泄体重など個々の記録をしている。身体状態の変化や異常に気づけるよう見守りを行い、対応し、申し送りをし、記録にも残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	常に常勤の看護職がおり相談できている。またかかりつけ医、家族と連携をとりながら健康状態を伝え、重度化や症状の把握を伝え、緊急時に対応してもらう。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人や家族の希望するそれぞれのかかりつけ医を受診している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医と事業所の関係を築くために必要であれば受診時同行したり、状態を書面にして渡したりして、適切な医療をうけられるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院受診は基本家族さんの同行をお願いしているため、受診結果の報告、検査結果は共有する為にも記録の用紙に必ず記入して貰い、今後の治療やケアの仕方などをきちんと話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際、本人の状態や生活状況、経過を記入した介護要約を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	お見舞いに行ったり、家族からきいたり、担当看護士さんやソーシャルワーカーとの電話で連絡を取り合い、状況を把握するようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	担当職員から主治医への連絡シートを受診時に提供している。また意見などもらっている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常に利用者さんの気づいた情報を看護職に伝え把握してもらっている。必要であればかかりつけ医には、連絡シートで情報を伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職に24時間連絡がとれる様にしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護職が日頃の健康管理や状態の変化に支援できる様に体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の使用する薬の目的や副作用、用法や用量について申し送りやミーティングで理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	居宅療養管理指導サービスを薬剤師と契約し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。服薬管理は二重に行いミスを防げるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	何らかの変化や変動があればすぐ薬剤師や看護士、医師に相談している。副作用などないか状態の観察をしっかりとっている。状態を記録にとり職員に把握してもらっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	看護職や薬剤師による居宅療養管理指導を依頼しているため、本人の状態や変化等や常に情報提供している。				

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に、重度化や看取りについての指針を説明し、同意を得ているが、家族には実感がなく、徐々に変化や異変が見られたときに報告し、その都度対応を話し合うことを確認している。	/	/	/	入居時に、職員は利用者や家族に、「重度化及び看取りの指針」に基づいて説明している。利用者の状態が悪化した場合には、家族や医師、看護師と話し合い方針を共有して支援をしている。急変時には入院する利用者も多く、今までに事業所での看取り実績はない。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人及び家族と随時話し合い、かかりつけ医に相談しながら方針を決めている。訪問看護が必要になる際には協力をお願いしている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期対応について常に職員と話し合いを持つている。看取りについての外部への研修に参加するようにしているが現在コロナ感染予防の為参加できていない。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事業所の力量や方針について十分説明し、医療や家族との協力が重要だということを理解、同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族やかかりつけ医など医療関係者との連携とチームケアの重要性を理解している。今後の変化に備えて検討準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情の理解に努め、支援する、チーム全体でのサポートを心がけている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員が外部研修や内部研修に行き、施設内のマニュアルも把握し対応策について学んでいる。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	看護職が重なり、感染症に対する予防や対応マニュアルをもとに、感染症が発生した場合は速やかに対応が出来るようにミーティングで訓練を行っている。(年1回)	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	保健所、行政、インターネット等を通じて得た情報を職員に伝え現場で取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	薬剤管理を契約している平野薬局さんから感染症等の情報を教えていただいている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗いやうがいなど徹底している。利用者にも声掛けしている。来訪者には玄関に消毒剤やマスクを常備し協力をお願いしている。現在検温も行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時、本人の様子をお伝えし、職員の思いも寄せて、一緒に協力しながらケアをしている関係を築いている。				家族と利用者が一緒に散歩やお茶会をしたり、おやつ作りをしたりしていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため中止している。職員は、毎月利用者と一緒に書いたはがきのほか、年4回発行している「ひまわりの家新聞」を家族全員に送付し、利用者の様子を伝えている。事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の時に報告したり、「ひまわりの家新聞」で伝えるほか、玄関の黒板に行事予定や運営推進会議の議事録を掲示して、家族の理解や協力を得られるようにしている。職員は、家族が気がかりなことや意見、希望を気軽に伝えたり、相談できるように運営推進会議への参加を呼びかけたりするほか、来訪時には、職員から声をかけ、ゆっくり話を聞くように努めている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来訪時には、ゆっくり過ごせるように居室に案内し、お茶を飲みながら談笑してもらえるような雰囲気づくりを心がけている。一緒におやつを食べてもらって他の利用者さんとなじみの関係をつくっている。(コロナの影響現在できていない)					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	施設での散歩では家族が同行して下さったり、家族会では職員と一緒に食事作りをしたり催し物ではフラダンスを披露して下さる。(コロナの影響で現在できていない。)			○		○
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	3ヶ月に1回新聞を発行し、ホームでの暮らしぶりを家族に送っている。			◎		◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	日頃の関わり方で、家族が知りたいことや不安に思っていることを把握し、来訪時には報告をしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族それぞれの関わり方がちがうことを職員が理解し、認知症への理解、適切な接し方等、その時、その時に対応などを話し合い、家族ならではの働きかけや関わりなどの大切さを伝え、絆を深めている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	来訪時やお便り等で運営や行事、出来事等お知らせをしている。			△		○
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	母の日、納涼祭、クリスマス会など、行事を催し、家族同士の交流を図っている。(コロナの影響で現在できていない)					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	「自由」に行動してもらうには、リスクがあることも説明し、安全に暮らせる工夫や対応策について常に話し合っている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	普段から話したり連絡を取り合い、気軽に相談していただけるような関係を作っている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には、丁寧に説明を行い同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時に退去の条件について説明している。退去を検討する場合には決定過程、その都度、対策などを家族に相談、説明を重ね、具体的な説明の上、理解を得て、退去先の相談支援をおこなっている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約内容及び料金変更があったときには、文書でお知らせし、個別に説明して同意を得るようにしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議等で取り組み等を説明し、理解を図っている。	/	○	/	事業所として自治会に入会しており、利用者は毎日の散歩時に、地域住民と挨拶や会話を交わしている。また、利用者と一緒に地域の祭りや児童館のイベント、近隣の他の事業所の納涼祭などに参加するなど、交流を深めている。現在はコロナ禍のため、ボランティアの受入れや保育所等の交流は中止している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日々の散歩時のあいさつ、地域行事への参加等で日頃から関係を深める働きかけに努めている。(コロナの影響の為現在できていない)	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域のボランティアの人達に訪問して頂いたときに、お話を機会を作っている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	利用者の知人や親戚の方が立ち寄ってくれている。(コロナの為現在できていない)	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時の挨拶などの声は掛け合っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域のボランティアや地域の保育所、学校による行事等を毎年取り組んだ支援をしている。(今年の4月からは、取り組みが出ていない)	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の行事案内等を見たときに、利用者と話し合いながら参加し楽しめる様に支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の保育所、中学校、児童館等と定期的な交流を取り組んでいる。近所の福祉施設の行事にも参加している。何かあるときは地域の交番等にも相談が出来る様にしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議は民生委員、市の担当、児童館、他施設の方と2ヶ月に一回開催している。利用者の家族さんの参加もして頂ける様になった。	×	/	△	運営推進会議には、家族や市担当者、民生委員、他の施設職員の参加を得て開催している。以前は会議に利用者も参加していたが、会議中に落ち着いた利用者もいたため参加を見合わせている。今後は、会議に利用者が安心して参加できるように、家族と一緒に参加したり、職員の声かけなどを工夫したりすることを望みたい。会議では、利用者の様子やサービスの実際、評価への取組み状況などを報告している。参加者から「会議内容が家族全員に周知できにくいので、議事録を玄関の黒板に掲示したらどうか」という提案が出され、現在は議事録を黒板に掲示し、来訪者は会議内容を見ることができる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	利用者の近況、職員の研修参加とその後の取組み方等を報告し、年に1回サービスの評価の報告をしている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容と取組み話し合い助言をもらっている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議では必ず参加者への意見をもらうようにしている。特にヒヤリハット、事故報告等に対する対策の助言をもらっている。会議で出た意見をミーティングで報告し、運営に生かすようにし、その後の会議で取り組みや経過を伝えている。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	メンバーが参加しやすいように日時、曜日を変えながら全員参加出来る様に配慮、工夫している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録は毎回、高齢課に提出しているのと、玄関に設置し家族にも見てもらえる様にしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各フロアで理念を職員間で話し合って作っている。毎朝申し送り時に復唱している。スタッフの共通認識のためにもミーティングでケアの話し合いをする時の指針になっている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所の玄関とフロア内に設置している、折に触れ伝えるようにしている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	現場の様子や面談などで職員個々の意識や力量を把握して研修計画を作成し、取り組んでいる。	/	/	/	月1回、代表者は事業所に来訪があり、職員と挨拶や会話をしている。2か月に1回代表者と管理者が集って話し合う場があり、管理者は職員の意見や希望を伝えている。法人全体で忘年会や新年会を開催したり、事業所内で忘年会や焼肉パーティーを開催したりするなど、職員同士の交流を行うなど、働きやすい職場となるよう努めている。また、市のグループホーム交流会や県地域密着型サービス協会などにも参画し、職員は外部研修に参加したり他の事業所等との意見交換をしたりすることができおり、職員育成にもつながっている。事業所では、ストレスチェックは実施されていない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人には10日に一度の目標を考えてもらい、担当職員と面談しながら、仕事の習得に取り組んでもらっている。働きながら資格を取れるようにバックアップしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回考課を行い、勤務状況、働く姿勢、実績、研修への取り組み等を給与や賞与に反映している。夜勤の回数等本人の希望を添えられるよう勤務シフトや労働時間を随時話し合いやすい環境を整理している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者や職員が同業者と交流する機会を積極的に勤めている。愛媛県地域密着型サービス協会やグループホーム交流会に加入しネットワーキング作りに取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者による職員面談を定期的に行い職員の心身の健康状態把握及び助言、指導を行っている。管理者が集う。法人会の開催により相談、サポートし合える関係作りを図っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	外部研修にも参加しながら、職員すべてに内外の研修をうけてもらい、虐待や不適切なケアについての行為を理解している。	/	/	/	年4回「虐待・身体拘束について」の内部研修や外部研修に参加した職員は、ミーティング時に研修内容を伝達し、職員間で情報を共有している。職員同士で不適切な言動などを発見した場合には、職員は管理者に伝えて個別に内容確認を行い、管理者は申し送り時に報告して再発防止や予防に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々、ケアの振り返りし、ミーティングでも一人ひとりのケアについて話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々のケアの言葉や態度、行動が不適切でないか、常に意識をしている。発見した場合の対応や手順も周知している。また、虐待、不適切なケアについて職場全体で勉強会を行っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレスが利用者へのケアに影響しているように感じた場合、必ず話す機会を設け本人の気持ちを聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	すべての職員が内外研修をうけており、身体拘束をしないケアへの共通認識をもっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束になるのか、ひとつひとつのケアで疑問に思う時には職員同士で随時申し送り等で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束を行わない事業所のケア方針や考え方、対策、利用者の心の弊害等説明、話し合い理解を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	毎年成年後見制度についての外部研修に行き、学んだ事をミーティングで発表し職員全員が理解できるよう学んでいる。今年はコロナ感染予防の為に外部研修には参加できていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて、案内説明をしたり、相談支援を行っている。市にも助言をもとめたり、パンフレット等で情報提供を行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じ、専門機関等と連携して対応することが出来る。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、スタッフがいつでも見れる場所に配置している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	内外研修を受講し、勉強会も行っている。消防署の救急救命講習も全職員が受けているが、今年には行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット、事故については迅速に報告書を作成し、すべてのスタッフに周知し、その対策について話し合い、実施する。その後ミーティングで評価、見直しを検討をし、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者のアセスメントや日々の状況からリスクやおこりうる事故想定をし、申し送りやミーティングで把握し、注意喚起を行っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	対応マニュアルを作成し、見やすい場所においている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	寄せられた苦情に対しては、マニュアルに沿って迅速に誠意をもって対応する。法人内でも連絡、相談助言のつてもらう。内容によっては市にも相談、報告をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情にたいして当事者に納得を得ながら前向きな話し合いを行い検討していく。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	利用者が意見や要望、苦情を日頃からさりげなく聞いたり、本人が言いにくいことも表情等で汲み取る。気付いたことは職員同士で話し合い、家族にも伝える。	/	/	◎	職員は利用者の意見や要望、苦情が聞き出せるよう常に話に耳を傾け、対応しながら利用者が安心して暮らすことができるように努めている。意見などを伝えることが難しい場合には、利用者の表情などを観察し、思いを汲み取り、検討して支援している。玄関に意見箱を設置しているほか、家族から意見や要望が聞けるように、職員は運営推進会議や来訪時に声をかけて話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、管理者は職員と年2回以上個別面談を取り入れて意見や提案を聞くことができ、ミーティングの中で利用者本位の支援をしていくための運営を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	玄関に意見箱を設けている。家族には何でも話ができる関係性作りに努めている。	/	◎	/	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書が変わるときには、必ず説明し、相談等があれば聞きだしている。、家族会などのときに、再度説明するよう心がけている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	意見や要望、提案があれば現場に足を運んでもらい直接話を聴いてもらっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的に個別面談(年2回以上)を行い、意見や提案等を聞く機会をもうけている。基本的に意見や提案が有るときにはいつでも聴くようにしている。	/	/	○	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年に1回は評価項目を自分で確認し、ミーティングで話し合っている。				外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画は、市担当者や運営推進会議のメンバー、家族に報告しているが、地域包括支援センターへの報告まではできていない。運営推進会議のメンバーに事業所の取り組みのモニターをしてもらい、意見や助言をもらうことができる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	理解するためにどんな研修が必要なのか把握し、取り組むことができる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標計画を全スタッフに提示しみんなに意識して取り組んでもらうようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族会で報告や、推進会でも報告し今後の取り組みの意見や助言を頂いている。家族会は今年からは中止している。祖推進会は書面のみで行っているため、取り組みは行えてはいない。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画をミーティングや運営推進会で成果や状況を話し合っている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害別に対応マニュアルを作成しいつでも見れるところにおいている。内部研修、法人委員会でも話し合っている。				事業所では、様々な災害や時間帯を想定して、年2回以上避難訓練を実施している。事業所として近隣施設と連携を図り、災害時の協力体制を整えているが、地域との連携までには至っていない。また、避難訓練時など消防署の参加協力をお願いしているが、連携には至っていない。外部評価の家族と地域アンケート結果から、災害への対応について十分に周知できていないことが読み取れるため、今後は、家族や地域住民に参加を呼びかけて避難訓練の実施や話し合いをするなど、防災への理解と協力が得られることを期待したい。また、管理者は10月末に開催される地域の防災訓練に参加することを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年に2回、火災避難訓練、1回地震訓練、1回水害訓練を行い、毎回いろいろな時間帯を想定した計画を実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に賞味期限の確認、備品、設備のメンテナンス、日常的に避難経路のチェックもおこなっている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の施設とは、緊急時の協力をお願いしている。定期的には推進会で話題になり確認している。消防団にもお願いしている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の研修などに参加し情報は収集している。地域での訓練などの参加は至っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ホームの推進会で事例を報告したり、相談があった場合に助言を行っている。				事業所には年2～3回認知症についての相談がある。事業所として、学生の福祉体験の受け入れをしているが、市担当課や地域包括支援センター、他機関と連携して地域活動は十分に行えていない。今後は、地域のイベント開催に合わせて相談窓口を設けたり、他機関と協働して認知症の勉強会を開催したりするなど、少しずつ地域のケア拠点としての機能を発揮していくことを望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族さんが、見学などに来られた際に、困っていることや、分からないこと等相談に支援を行っている。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域の方の訪問も受けたい事を、推進会で伝えてはいるが、そのような機会がなかなか持ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学生などの職場体験や、ボランティアなどの受け入れをしている。現在、コロナ感染予防の為に中止している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	近隣の施設や学生の福祉体験などで交流を持っている。令和元年7月と10月は福祉体験で交流もっていた。ボランティアは11月まで来られていた。現在コロナ感染予防の為に中止となっている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 20 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3870201153
事業所名 (ユニット名)	グループホームひまわりの家 ころ
記入者(管理者) 氏名	和田京子
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <p>私たちは、専門職としての誇りと責任を持ち、最良の介護サービスを提供します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こころの通い合う暮らし ・笑顔あふれる暮らし ・あたり前の暮らし 	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①介護計画を反映出来る様介護記録と同じフィルに計画書を綴ると記録が書きやすくなった。7/1タブレット(ケア機)で記録打つようになる。</p> <p>②玄関に掲示板を置きお知らせコーナーを作り職員の移動、お便り、などわかりやすく家族さんに伝えることが出来た。</p> <p>③会議での内容を提示版に掲示し、みていただくようにした。以前に比べて推進会の内容を伝えることができた。家族に声掛けしながら一人ずつではあるが、参加してもらえることが出来た。</p> <p>④家族の面会時に外部評価の結果を伝えるようにした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>平屋の事業所の隣地には畑や果樹園を造り、利用者と一緒季節の野菜や果実の収穫を楽しんでおり、利用者は一年中季節を感じる事ができる環境にある。職員は新鮮な食材を使用した手作りの料理やおやつが出されているほか、日常的に毎日の散歩や入浴などをしたりしながら、利用者にとって事業所理念にも掲げている「笑顔あふれる暮らし、あたり前の暮らし」の実現に向け、職員一丸となって取り組んでいる。木製のテーブルやいす、手作りの表札などが事業所内外に見られ、温か味を感じることができた。また、訪問調査時には、玄関前のテーブルで家族と利用者のおやつを食べながら、ほのぼのと会話を楽しむ光景を見ることもできた。目標達成計画に掲げた取組みや利用者や家族等から出された意見など、サービスの向上と理念等の実現のため、事業所として積極的に対応や取り組みができています。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	一人ひとりの思いや希望、意向を日常の会話の中でさりげなく聞きだしている。その内容を申し送りや本人のケアプランに取り込んでいる。	○	/	◎	日常会話の中から、職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向などの話に耳を傾けて把握し、職員間で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	意思疎通が困難な場合、本人の表情を見たり生活歴から検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族や知人が面会に来た時には、昔のエピソードやその頃の気持ちなどを聞きだし、今の思いに反映して考えている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の言動、気持ち等を職員間で共有しケアプランの中に入れていくようにしていく。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員間の情報等を取り入れながらミーティング時に話し合いをしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族等から情報を聞き取り、記録したり、暮らしの情報のシートに記入して把握に努めている。	/	/	◎	入居時に、職員は利用者や家族のほか、入居前担当していた介護支援専門員などから生活歴や暮らし方、こだわり、大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過などを聞いている。入居後に新たに把握した情報は、アセスメントシートに追記している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日常生活の中や定期的なアセスメントシートを用い出来る事、出来ない事の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	不安になったり、不安定な時の状況を把握しみんなで話し合っている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	毎日の申し送りや月1回のミーティングで話し合い、対処方法等を検討、共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	記録や計画書の中から24時間の生活の流れを把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	これまでの暮らしの情報を参考にしたり、新しい情報を取り入れながらミーティング等で話し合っている。	/	/	○	職員は把握した情報をもとに、月1回実施するミーティングやカンファレンスの中で、「利用者が何を求め、必要としているのか」を利用者の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	その都度必要時と月一回のミーティングで話し合い、検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題を見いだす為に、日々の申し送りで話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から聞き取りをしたり、表情から読み取り本人らしい生活を支援できるように作成している。	/	/	/	利用者がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、職員は事前に利用者や家族、主治医から意見や要望を聞き取り、月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	アセスメントと個別ケア記録をもとにしたし、家族さんの意見を取り入れながら作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	体調をみながら、できる限りこれまでの生活と同じ過ごし方ができるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	常勤の看護師を置き、利用者さん一人一人の健康状態を把握し家族の意向を聞きながらチームで話し合いをしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握し、介護記録に残している。	/	/	◎	事業所では、利用者一人ひとりの介護計画を1冊のファイルにまとめ、常に確認できる場所に置いて職員間で共有している。「介護計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったか」を職員は介護記録の中に記録を残し、日々の支援につなげている。職員は利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子や支援した内容を、介護記録やバイタルチェック表、排泄チェック表などに個別に記録している。また、職員の気づきや工夫、アイデアなどは、個別にグループホーム日誌に記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	記録した内容を元にミーティングで評価し、日々の支援に繋げている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の様子等を介護記録に個別に記録している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	ミーティング等で気づきや工夫、アイデア等を話し合いした事を記録している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に一回、見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。新たな要望や変化が見られない場合も、職員は月1回利用者一人ひとりの現状を確認している。退院後などには利用者や家族、主治医を交えて話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月のミーティングで評価を行い、スタッフ間で現状確認を行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	退院後や心身の状態が変化した場合、必要に応じて家族や関係者と話し合い、新しい計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月一回はミーティングを行い意見交換をし、記録を残し、緊急案件がある場合は、その都度会議をしみんなで共有している。	/	/	◎	事業所では、課題解決するために月1回ミーティングを実施している。緊急案件がある場合には、その都度、朝・夕の申し送り時などを活用して話し合いをしている。参加できなかった職員は、ミーティング議事録を確認して押印をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	各利用者の担当を決め、前もって話をする内容を会議までにまとめておいてスムーズに話し合えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	日時、場所は事前に定め、周知し、研修手当ての支給により、会議、研修の重要性の理解をはかり、参加を促している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できなかった職員はミーティングノートを必ず確認しサインをもらっている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りで伝達し確認ができるようにしている。確認しサインをもらっている。	/	/	◎	職員はグループホーム日誌に伝達事項を記録を残しており、確認後には職員全員が押印することで情報を共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員の交代時には必ず申し送りをしている。個々が申し送りの記載を確認している。確認しサインをもらっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中でしたいことを聞き出し、家族に相談したり会議で検討し計画をたてながら叶える努力を行っている。	/	/	/	職員は様々な場面で利用者へ選択肢を提示し、おやつや飲み物、散歩のコース、レクリエーションなど選んでもらう機会や場面をつくっている。利用者の好きな昔の話をしたり、体を動かすゲームやレクリエーションをしたりする場面において、職員は利用者の活き活きとした言動や笑顔を引き出すことができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洋服を選んだり、おやつやレクリエーション等で本人が好むものを選ぶことができるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	本人に確認しながら、物事を進めている。迷いがある場合は職員が寄り添い支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	大まかなホームの流れがあるが、利用者個々の生活リズム及び習慣を大切にしている。一人ひとりのペースに合わせ、無理強いないように気をつけて支援を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人が好む事・できる事・役割見つけ出ししながら、いろいろなことに挑戦してもらっている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難の人には、日ごろの表情や行動等から観察し支援出来る様になっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内外の研修に参加し、職員間で常に意識し合っている。	/	◎	○	年1回法人内で倫理やプライバシーの保護、権利擁護などのテーマに取り上げ研修を実施している。参加した職員は、ミーティング時に研修内容を伝達して、職員間で情報を共有している。トイレ誘導時に、職員は利用者の耳元でさりげなく声かけをすることができている。職員は利用者の各居室を専用のプライバシーの場所であることを理解しており、居室への出入り時には必ずノックや利用者へ声かけている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	◎	必要に応じ、利用者本人だけが分かるように側で対応し、誘導や声掛けに配慮している。	/	/	◎	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	さりげなくトイレに誘導したり、入浴時外から見えないような工夫をし羞恥心への配慮をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	利用者のプライバシーを大事にし、居室への出入りには必ずノックや声かけを行っている。入室時には原則、利用者と一緒に入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ミーティングや研修で重要性を理解し遵守している。書類等の持ち運びにも注意している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	食事の準備、後片付け、配膳、下膳、洗濯取り込み、干し量みなどの家事を助けてもらっている。昔からの風習、習慣を教えてもらっている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係性を把握しており、状況を見て席替えをしている。トラブルになりそうな場合には、職員が利用者の間に入るなどの気配りをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士が日々の生活の中、助け合い支え合う大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	席の配置、外出時やレク時のグループ構成など、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しそうな利用者には職員が間に入りコミュニケーションを取れるようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった場合、その都度お互いの話を傾聴し、解決出来る様になっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に情報を収集したり、日々の会話の中で情報を得るようにしている。一人暮らしの場合、家族等が把握されていないことも多く、本人からの聞き取りのみになっている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	馴染みの関係や場所を聞き取りしているが、同居家族は詳細に聞くことができるが、独居の利用者は本人、家族等から聞き取り把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族との外出の際に、馴染みの場所や家に帰ることが出来るよう支援している。この4月よりコロナ感染予防の為に家族との外出は控えている	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	居室でゆっくり過ごせるよう、居心地のよい環境作りを努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	すべての利用者が1日一回は外にでれるように、散歩や日光浴をしたり、天気の良い日はドライブや買い物などに行けるようにしている。重度の人も車椅子で散歩をしたり、室外に出て日光浴をしている。	◎	○	◎	日頃から雨の日以外は、利用者と一緒にコースを決めて散歩したり、中庭でお茶会をしたりするなど、職員は利用者が戸外で過ごせるよう取り組んでいる。また、車いすの利用者も一緒に散歩や日光浴をすることができている。家族の協力を得ながら、利用者の希望する外食やお墓参りなどに出かけられるよう支援しているが、現在はコロナ禍のため、家族との外出は自粛している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	ボランティアの方に時々サンボなどの支援してもらっていた。現在コロナ感染予防の為来していない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	天気の良い日は、外の空気を感じてもらうように、散歩や日光浴をしてもらっている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族と一緒に買い物や外食、お墓参りに行かれている。本人さんが行きたいところを家族さんに伝えて、可能な限り連れて行ってもらっている。4月からコロナ感染予防の為家族さんとの外出できていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	全職員年一回は認知症研修を受講し、学びを深めている。ミーティング等で個別ケアについて検討し、不安や不穏な行動を軽減できるようなケアを統一している。	/	/	/	入浴やレクリエーション時など、職員は利用者のできることは時間が掛かっても、極力手や口を出さない見守り支援をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	内部・外部研修の受講により、知識を習得に努めている。個々の利用者さんの状態を把握し維持、向上できるようにプランにも反映させて取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人のペースを大切にできること、できそうなことを見守り、意欲の向上につながるように声掛けしている。(日常生活動作、家事動作・レク作業等)	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	個々の性格や出来ることを活かし、色々な作業に参加してもらいながら、本人の出来る役割を見つけ出している。	/	/	/	玄関周辺の掃き掃除や水撒き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえなど、職員は利用者一人ひとりが楽しみながら役割や出番をつくる取り組みをしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々できることをみつけ、日常的に取り入れて楽しみややりがいのある時間をすごしてもらう工夫をしている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事に参加して、楽しみを持ち、交流を深めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人の好みを知り、その人らしい身だしなみを把握している。				食事の時に、職員は利用者の気持ちに沿ってエプロンを使用せず、タオルを膝に置き、食べこぼしで服が汚れないよう配慮している。衣服が汚れた場合には、職員は利用者にとりげなく声をかけて居室へ移動してもらい、着替えをしている。車いすの利用者も、家族と一緒に美容室へ出かけたり、好みの衣服を持ってきてもらったりするなど、整容やおしゃれの支援をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	本人の持ち物は、以前より使っていた物や好みものを準備している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	以前から身に着けていた物や家族が準備した物を持参している。職員と一緒に選ぶようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	前もって行事を伝え、家族がTPOにあわせた服を用意したり、職員が本人と一緒に選んだりしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	着衣の乱れ、食べこぼし、口の周囲の汚れ等は、本人にさりげなく声をかけている。着衣の汚れは、別室で着替えられるよう支援している。	◎	◎	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	◎	家族に依頼して以前からの馴染みの美容院へ連れて行ってもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	日中は洋服で過ごせれるよう、着替えてもらっている。整容の方はできる限り家族さんが連れて行ってきている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	楽しみながら食事が出来るよう支援している。その中で、なるべく自分のペースで自力で食べれるように支援している。				事業所では、職員が利用者の好みや旬の食材などを取り入れ、献立を作成している。食材は業者に配達してもらい、職員が調理をしている。食材の下ごしらえや後片付けは、利用者と一緒にしている。お皿以外は、利用者や家族に使い慣れたものを持ってきてもらい、使用している。食事中には、必ず1名の職員は利用者のそばに寄り添いサポートをしているが、食事は一緒に食べていない。検食する職員はリビング横の和室で、利用者の様子を見ながら食べていることから、コロナ禍が治まった後には、利用者と同一食卓を囲んで一緒に食べることを検討することを望みたい。職員は重度な状態の利用者も、調理の音や煮物などの匂いを感じ、食事が待ち遠しくなるような雰囲気づくりをしている。現在、利用者のアレルギーのある利用者はいない。管理者は、利用者や職員から食事の感想や意見を聞き、栄養面や献立のバランス、食事形態などを配慮することができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	◎	調理の下準備、後片付けなどできることを見守りながらしてもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	一緒に手伝ってもらうことで感謝の言葉をのべ、自信や達成感を味わい笑顔をひきだしていく。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	最初にアレルギー等のアセスメントをとっている。嫌いなものや苦手なものは記録してスタッフ全員が把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	利用者の好みを聞きながら、旬の食材を使ったり季節行事の料理を用意したり、その時期を楽しめるようにしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	個々の食事形態・嚥下状態・健康状態にあわせた調理をしている。また、食器や盛り付け等で、見た目も楽しめるよう工夫しているが、食べ物によってきざみやミキサー食で対応している方もいる。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人が使い慣れたものを用意してもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員と一緒に食事はしていないが、フロアに必ず一人は付き、利用者の食事の様子を見守り、サポートしている。一人の職員は必ず検食をしている。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	職員が調理をしている姿が近くにおい、食事を作っている音や匂いを常に感じれる。献立や食材の話しながら、楽しめるよう配慮している。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	毎回、食事・水分摂取量は記録し把握している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量の少ない人には、果物やおやつで補うようになっている。また、水分量の少ない人には、好きな飲み物を用意したり、ゼリーなどで摂取できるようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的な話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	担当職員が献立を考えているが、栄養の偏りが無いように配慮している。新しいメニューなどは、職員全員で共有している。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板、包丁など食材により決めている。毎日ふきん等は除菌し、冷蔵庫の食材のチェック・掃除をして衛生面の管理に努めている。手洗いをこまめに行い、エプロンの着用をしている。				

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	月に1回、歯科医師・歯科衛生士による内部研修で、知識を深め、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。現在コロナ感染予防の為医師からの書面にてミーティングで勉強会を行っている。				週1回歯科医に往診をしてもらい、口の中の健康状況の把握をしてもらっていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため中止している。現在は、毎食後に利用者に口腔ケアをしてもらい、職員が利用者一人ひとりの磨き残しや口の中の健康状況を確認し把握している。歯磨きなどの介助の必要な利用者が2名いる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	週1回、歯科医師による往診があり、必要であれば治療を行っている。現在コロナ感染予防の為往診中止している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	月1回の、歯科医師・歯科衛生士の研修で、口腔ケアの正しい方法を学び、必要に応じ対応方法や助言などを頂いている。コロナの影響で今は書面にて助言など頂いている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	声掛け見守りで本人が出来るように支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後、歯磨きの声掛け見守りをし、本人が出来るよう支援している。定期的口の中をチェックしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	往診に来てもらっていたが、今年の4月からは中止している。今後コロナの状況見ながら検討していく。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的な声掛け誘導を行い、トイレで排泄ができることで、達成感が得られ、おむつ使用時の不快感を感じさせないようにしている。利用者の低下により夜間職員一人では対応出来ないためおむつ対応している方が一名いる。				事業所では、利用者が布パンツを使用し、トイレで排泄ができることを基本としている。職員は利用者が入居時や退院時に紙パンツを使用しているも、一人ひとりの状態に合わせて職員間で検討するほか、家族とも相談しながら布パンツへ移行できるよう支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘による不調や不穏が起こることを把握している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	大体の排泄リズムは把握している。必要に応じ、トイレチェックや排尿排便の記録をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	必要に応じ、一人ひとりの状態に合った支援が出来るよう、職員間で話し合っている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	ミーティングや申し送りなどで話し合いながら改善出来る点は改善している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	パターンはトイレチェックで把握し、兆候を表情や行動で把握できるように観察し、早めの声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	基本、布パンツで過ごせれるよう心掛けている。紙パンツやパットを使う際には、きちんと本人・家族に状態を話し承諾を得ている。パットの種類も伝えておく。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着(失禁パンツ)や紙パンツ、パットを使い分けしている。(夜間と昼間のパットも使い分けしている)				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	繊維質の野菜を摂ったり、こまめに水分補給をしてもらう。散歩や体操をして、快適な排便を促す取り組みをしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	毎日入浴可能。3時に降に順次入ってもらっているが、本人の希望や外出された場合、夕食後も入浴可能。お湯の温度が熱いのが好みの人が先に入ったり、順番も考慮している。	◎		◎	利用者は、毎日15時から入浴することができる。事業所では、利用者の毎日の入浴を可能としている。利用者が日中に外出した場合や利用者の希望した場合には、夕食後でも入浴できる対応をしている。また、利用者の希望に沿った湯の温度や湯船に浸かる長さなどにも、職員はできる限り柔軟に対応している。また、風呂場の入口には湯ののれんが掛けられ、坪庭のある浴室で、利用者はゆっくりとくつろぎながら、入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	2~3人で入浴出来るが、重ならないように配慮しながらゆっくり自分のペースで入れる様に支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	常に見守りしながら、自分でできることは自分でしていただき、できないところのみ介助をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を嫌がる要因を探し出し、その人に合わせた時間帯や声掛けなどに注意して対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックをして状態を把握している。入浴後も水分補給をしてもらい様子観察をしている。				

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の記録から個々の睡眠状態やパターンを把握している。	/	/	/	入居時に、睡眠導入剤を内服していた利用者には、職員が日中の過ごし方や支援内容などを検討し、医師や家族と相談しながら薬の必要がなくなるよう支援している。利用者の日中の活動量を増やすなど、利用者が安眠できるように支援している。現在、服薬をしている利用者は1名のみとなっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の過ごし方を工夫したり、眠りやすい環境づくりなどしている。また眠れない場合は、フロアで職員と過ごしてもらっている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日中の活動を活発にし、夜間自然と睡眠がとれるようにしているが、睡眠不足が続き、本人の体調に変化が見られるようであれば、医師に相談していく。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人が自由に居室で過ごす時間がある。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	年賀状を出したり、手紙が届いたりしている。電話も希望により対応している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状などは、自分ができる部分のみしてもらい、できないところは職員が手伝っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば使用ができる。ゆっくり話ができるよう電話のそばに椅子用意している。携帯電話を持っている方もおり、自由に居室で使用されている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙は必ず家族に伝えている。返事を書く希望のある利用者には手伝っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力を得ている。必要に応じ家族からの連絡もお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自分で買い物・支払いができる能力の維持と達成感が持てる大切さを理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	定期的に買い物に出かけ、自分で好きなものを買って支払いができる機会をつくっている。コロナの影響で外出できていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	ホームにケーキ屋・パン屋の販売が来ている。また、必要に応じ家族と一緒に買い物にでかけている。4月より外出できていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人の希望により、お小遣い程度の金額を自分で管理してもらっている人もいる。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	基本的にはお小遣いは職員が管理している。使い方については、本人・家族に相談している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的にはお小遣いは職員が管理している。入所時に、お金の使い方を明確に家族に説明している。おこづかい帳をつけ定期的に確認してもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	ニーズの把握に努め、できる範囲で本人や家族の思いに添えるよう柔軟に対応できるよう心がけている。	◎	/	○	遠方の家族が利用者の受診付き添えない場合には、職員が同行受診していたが、現在は家族の協力が得られている。今後、職員は「利用者のニーズの把握に努め、柔軟な支援に取り組みたい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関は常に明るく、花や絵を飾ったり工夫をしている。	◎	◎	◎	玄関前の花壇には季節の花が咲き、木製のテーブルやイスが設置されており、訪問調査日には、来訪した家族と利用者がおやつを食べながら歓談している様子を見ることができた。また、訪問時の玄関は網戸仕様にしており、来訪者には事業所内の様子が見えることもあり、気軽に出入りしやすい雰囲気を感じられる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の飾りものや花等を飾ったり、壁に利用者さんの手作りのものをかけたり、窮屈にならないテーブルやソファの配置を考えている。	◎	◎	◎	玄関には木製のテーブルとイスが設置され、花瓶にコスモスが活けてあるほか、松ぼっくりが飾られて季節感にあふれている。ユニット内の廊下には、利用者が手作りした季節の花飾りなどの作品が飾られている。リビングの天井は高く、中庭からの光が入り明るいこともあり、利用者はソファなど思い思いの場所でゆったりと居心地よく過ごすことができる。事業所内には不快な音や臭いはなく、掃除も行き届き、清潔感がある。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、居室・トイレ・フロアの掃除をし、清潔を保っている。汚物の臭いなどにも気をつけている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を飾ったり、レクの中で季節の歌を取り入れたり、季節の食材を味わってもらったりしている。その時期に合わせた壁画を作成し、展示している。自室で使うカレンダーも自作し飾っている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	各自の居室に自由に訪れたり、みんなでソファにゆったり過ごす場所を工夫している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは声をかけばなしにしないことを徹底している。脱衣所にのれんをかけ、直接外から見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人や家族と相談し、使い慣れた物を何点か置いてもらい居心地よく過ごしてもらっている。	◎			居室には使い慣れた物を持ち込むことができ、タンスやイスなどを持ち込める利用者もいる。利用者が作成したカレンダーを貼るなど、一人ひとりに応じた居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差を少なく、手摺の設置、トイレ等にはわかりやすいように大きく名前を明記している。カレンダーを2か所掲示し、月日が分かるようにしている。			◎	職員は利用者には絵を描いてもらい、各居室の表札は手作りしている。事業所内には、トイレの表示を大きくしたり、引き戸が分かるように「→こちらに引く」と張り紙をしたりするなど、利用者に分かりやすいよう工夫している。居室のタンスの引き出しには収納された衣類が分かりやすいように表記し、利用者が自分で出し入れできるようにしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安やトラブルをまねく物品はスタッフ間で話し合い、家族等に相談し、排除したり、他のもので代用したり工夫をしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者が自分で使用するのに必要な物品(はさみ、ペンなど)は届くところに置いている。本や裁縫道具、掃除道具、新聞など欲しいときに声をかけてもらうとすぐ渡せる場所においてある。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	基本的に、鍵をかけないことを職員全員把握している。自由に玄関の出入りができるように心がけている。	◎	◎	◎	職員は玄関などに鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関とユニットのドアには昼夜問わず施錠していない。駐車場の出入口には来訪者等が分かるようにセンサーを設置し、プザーが鳴るようにしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約時の管理者の話し合いで施錠をしないことをなし納得させておられる。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	常に利用者の行動を把握しながら駐車場内では自由に駐車場外に出られた場合はセンサーが鳴るように設置している。その場合は職員と一緒に付き添い近辺を散歩している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に入手した情報を職員間で確認しあい共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	朝、入浴時のバイタルの記録、食事水分排泄体重など個々の記録をしている。身体状態の変化や異常に気づけるよう見守りを行い、対応し、申し送りをし、記録にも残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	常に常勤の看護職がおり相談できている。またかかりつけ医、家族と連携をとりながら健康状態を伝え、重度化や症状の把握を伝え、緊急時に対応してもらう。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人や家族の希望するそれぞれのかかりつけ医に受診している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医と事業所の関係を築くために必要であれば受診時同行したり、状態を書面にして渡したりして、適切な医療をうけられるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院受診は基本家族さんの同行をお願いしているため、受診結果の報告、検査結果は共有する為にも記録の用紙に必ず記入して貰い、今後の治療やケアの仕方などをきちんと話し合っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際、本人の状態や生活状況、経過を記入した介護要約を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	お見舞いに行ったり、家族からきいたり、担当看護士さんやソーシャルワーカーとの電話で連絡を取り合い、状況を把握するようにしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	かかりつけ医に状況を伝えている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	常に利用者さんの気づいた情報を看護職に伝え把握してもらっている。必要であればかかりつけ医には、連絡シートで情報を伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職に24時間連絡がとれる様にしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	看護職が日頃の健康管理や状態の変化に支援できる様に体制を整えている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の使用する薬の目的や副作用、用法や用量について申し送りやミーティングで理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	居宅療養管理指導サービスを薬剤師と契約し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。服薬管理は二重に行いミスを防げるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	何らかの変化や変動があればすぐ薬剤師や看護士、医師に相談している。副作用などないか状態の観察をしっかりしている。状態を記録にとり職員に把握してもらっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	看護職や薬剤師による居宅療養管理指導を依頼しているため、本人の状態や変化等や常に情報提供している。				

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に、重度化や看取りについての指針を説明し、同意を得ているが、家族には実感がなく、徐々に変化や異変が見られたときに報告し、その都度対応を話し合うことを確認している。	/	/	/	入居時に、職員は利用者や家族に、「重度化及び看取りの指針」に基づいて説明している。利用者の状態が悪化した場合には、家族や医師、看護師と話し合い方針を共有して支援をしている。急変時には入院する利用者も多く、今までに事業所での看取り実績はない。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	本人及び家族と随時話し合い、かかりつけ医に相談しながら方針を決めている。訪問看護が必要になる際には協力をお願いしている。	○	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期については、常に職員と話し合いを持つている。看取りについての外部研修に参加していたが現在コロナ感染予防の為参加できていない。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	事業所の力量や方針について十分説明し、医療や家族との協力が重要だということを理解、同意を得ている。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族やかかりつけ医など医療関係者との連携とチームケアの重要性を理解している。今後の変化に備えて検討準備を行っている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情の理解に努め、支援する、チーム全体でのサポートを心がけている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員が外部研修や内部研修に行き、施設内のマニュアルも把握し対応策について学んでいる。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	看護職が重くなり、感染症に対する予防や対応マニュアルをもとに、感染症が発生した場合は速やかに対応が出来るようにミーティングで訓練を行っている。(年1回)	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	保健所、行政、インターネット等を通じて得た情報を職員に伝え現場で取り入れている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	薬剤管理を契約している平野薬局さんから感染症等の情報を教えていただいている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は手洗いやうがいなど徹底している。利用者にも声掛けしている。来訪者には玄関に消毒剤やマスクを常備し協力をお願いしている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時、本人の様子をお伝えし、職員の思いも寄せて、一緒に協力しながらケアをしている関係を築いている。				家族と利用者が一緒に散歩やお茶会をしたり、おやつ作りをしたりしていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため中止している。職員は、毎月利用者と一緒に書いたはがきのほか、年4回発行している「ひまわりの家新聞」を家族全員に送付し、利用者の様子を伝えている。事業所の運営上の事柄や出来事については、運営推進会議の時に報告したり、「ひまわりの家新聞」で伝えるほか、玄関の黒板に行事予定や運営推進会議の議事録を掲示して、家族の理解や協力を得られるようにしている。職員は、家族が気がかりなことや意見、希望を気軽に伝えたり、相談できるように運営推進会議への参加を呼びかけたりするほか、来訪時には、職員から声をかけ、ゆっくり話を聞くように努めている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	来訪時には、ゆっくり過ごせるように居室に案内し、お茶を飲みながら談笑してもらえるような雰囲気づくりを心がけている。一緒におやつを食べてもらって他の利用者さんとなじみの関係をつくっている。現在できていない(コロナの為)					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	施設での散歩では家族が同行して下さったり、家族会では職員と一緒に食事作りをしたり催し物ではフラダンスを披露して下さる。(コロナ影響の為現在できていない)			○		○
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	3ヶ月に1回新聞を発行し、ホームでの暮らしぶりを家族に送っている。			◎		◎
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	日頃の関わり方で、家族が知りたいことや不安に感じていることを把握し、来訪時には報告をしている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族それぞれの関わり方がちがうことを職員が理解し、認知症への理解、適切な接し方等、その時、その時に対応などを話し合い、家族ならではの働きかけや関わりなどの大切さを伝え、絆を深めている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	来訪時やお便り等で運営や行事、出来事等お知らせしている。			△		○
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	母の日、納涼祭、クリスマス会など、行事を催し、家族同士の交流を図っている。(コロナの影響で現在できていない)					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	「自由」に行動してもらうには、リスクがあることも説明し、安全に暮らせる工夫や対応策について常に話し合っている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	普段から話したり連絡を取り合い、気軽に相談していただけるような関係を作っている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には、丁寧に説明を行い同意を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約時に退去の条件について説明している。退去を検討する場合には決定過程、その都度、対策などを家族に相談、説明を重ね、具体的な説明の上、理解を得て、退去先の相談支援をおこなっている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約内容及び料金変更があったときには、文書でお知らせし、個別に説明して同意を得るようにしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議等で取り組み等を説明し、理解を図っている。	/	○	/	事業所として自治会に入会しており、利用者は毎日の散歩時に、地域住民と挨拶や会話を交わしている。また、利用者と一緒に地域の祭りや児童館のイベント、近隣の他の事業所の納涼祭などに参加するなど、交流を深めている。現在はコロナ禍のため、ボランティアの受入れや保育所等の交流は中止している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日々の散歩時のあいさつ、地域行事への参加等で日頃から関係を深める働きかけに努めている。コロナの影響で現時点ではできていない)	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域のボランティアの人達に訪問して頂いたときに、お話を機会を作っている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	利用者の知人や親戚の方が立ち寄ってくれている。(コロナの為現在来客無し)	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時の挨拶などの声は掛け合っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域のボランティアや地域の保育所、学校による行事等を毎年取り組んだ支援をしている。(今年の4月からは、取り組みができていない)	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域の行事案内等を見たときに、利用者と話し合いながら参加し楽しめる様に支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の保育所、中学校、児童館等と定期的な交流を取り組んでいる。近所の福祉施設の行事にも参加している。何かあるときは地域の交番等にも相談が出来る様にしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	会議は民生委員、市の担当、児童館、他施設の方と2ヶ月に一回開催している。利用者の家族さんの参加もして頂ける様になった。	×	/	△	運営推進会議には、家族や市担当者、民生委員、他の施設職員の参加を得て開催している。以前は会議に利用者も参加していたが、会議中に落ち着きのない利用者もいたため参加を見合わせている。今後は、会議に利用者が安心して参加できるように、家族と一緒に参加したり、職員の声かけなどを工夫したりすることを望みたい。会議では、利用者の様子やサービスの実際、評価への取組み状況などを報告している。参加者から「会議内容が家族全員に周知できにくいため、議事録を玄関の黒板に掲示したらどうか」という提案が出され、現在は議事録を黒板に掲示し、来訪者は会議内容を見ることができる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	○	利用者の近況、職員の研修参加とその後の取組み方等を報告し、年に1回サービスの評価の報告をしている。自己評価、外部評価の結果、目標達成計画の内容と取組み話し合い助言をもらっている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議では必ず参加者への意見をもらうようにしている。特にヒヤリハット、事故報告等に対する対策の助言をもらっている。会議で出た意見をミーティングで報告し、運営に生かすようにし、その後の会議で取り組みや経過を伝えている。	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	メンバーが参加しやすいように日時、曜日を変えながら全員参加出来る様に配慮、工夫している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録は毎回、高齢課に提出しているのと、玄関に設置し家族にも見てもらえる様にしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	各フロアで理念を職員間で話し合って作っている。毎朝申し送り時に復唱している。スタッフの共通認識のためにもミーティングでケアの話し合いをする時の指針になっている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	事業所の玄関とフロア内に設置している、折に触れ伝えるようにしている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	現場の様子や面談などで職員個々の意識や力量を把握して研修計画を作成し、取り組んでいる。	/	/	/	月1回、代表者は事業所に来訪があり、職員と挨拶や会話をしている。2か月に1回代表者と管理者が集って話し合う場があり、管理者は職員の意見や希望を伝えている。法人全体で忘年会や新年会を開催したり、事業所内で忘年会や焼肉パーティーを開催したりするなど、職員同士の交流を行うなど、働きやすい職場となるよう努めている。また、市のグループホーム交流会や県地域密着型サービス協会などにも参画し、職員は外部研修に参加したり他の事業所等との意見交換をしたりすることができおり、職員育成にもつながっている。事業所では、ストレスチェックは実施されていない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	新人には10日に一度の目標を考えてもらい、担当職員と面談しながら、仕事の習得に取り組んでもらっている。働きながら資格を取れるようにバックアップしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回考課を行い、勤務状況、働く姿勢、実績、研修への取り組み等を給与や賞与に反映している。夜勤の回数等本人の希望を添えられるよう勤務シフトや労働時間を随時話し合いやすい環境を整理している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者や職員が同業者と交流する機会を積極的に勤めている。愛媛県地域密着型サービス協会やグループホーム交流会に加入しネットワーク作りに取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者による職員面談を定期的に行い職員の心身の健康状態把握及び助言、指導を行っている。管理者が集う。法人会の開催により相談、サポートし合える関係作りを図っている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	外部研修にも参加しながら、職員すべてに内外の研修をうけてもらい、虐待や不適切なケアについての行為を理解している。	/	/	/	年4回「虐待・身体拘束について」の内部研修や外部研修に参加した職員は、ミーティング時に研修内容を伝達し、職員間で情報を共有している。職員同士で不適切な言動などを発見した場合には、職員は管理者に伝えて個別に内容確認を行い、管理者は申し送り時に報告して再発防止や予防に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々、ケアの振り返りをし、ミーティングでも一人ひとりのケアについて話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々のケアの言葉や態度、行動が不適切でないか、常に意識をしている。発見した場合の対応や手順も周知している。また、虐待、不適切なケアについて職場全体で勉強会を行っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレスが利用者へのケアに影響しているように感じた場合、必ず話す機会を設け本人の気持ちを聞くようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	すべての職員が内外研修をうけており、身体拘束をしないケアへの共通認識をもっている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束になるのか、ひとつひとつのケアで疑問に思う時には職員同士で随時申し送り等で話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束を行わない事業所のケア方針や考え方、対策、利用者の心の弊害等説明、話し合い理解を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	毎年成年後見制度についての外部研修に行き、学んだ事をミーティングで発表し職員全員が理解できるよう学んでいる。今年はコロナ感染予防の為外部研修に参加できていない。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要に応じて、案内説明をしたり、相談支援を行っている。市にも助言をもとめたり、パンフレット等で情報提供を行っている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要に応じ、専門機関等と連携して対応することが出来る。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、スタッフがいつでも見れる場所に配置している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	内外研修を受講し、勉強会も行っている。消防署の救急救命講習も全職員が受けている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット、事故については迅速に報告書を作成し、すべてのスタッフに周知し、その対策について話し合い、実施する。その後ミーティングで評価、見直しを検討をし、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者のアセスメントや日々の状況からリスクやおこりうる事故想定をし、申し送りやミーティングで把握し、注意喚起を行っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	対応マニュアルを作成し、見やすい場所においている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	寄せられた苦情に対しては、マニュアルに沿って迅速に誠意をもって対応する。法人内でも連絡、相談助言にのってもら。内容によっては市にも相談、報告をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情にたいして当事者に納得を得ながら前向きな話し合いを行い検討していく。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	利用者が意見や要望、苦情を日頃からさりげなく聞いたり、本人が言いにくいことも表情等で汲み取る。気付いたことは職員同士で話し合い、家族にも伝える。	/	/	◎	職員は利用者の意見や要望、苦情が聞き出せるよう常に話に耳を傾け、対応しながら利用者が安心して暮らすことができるように努めている。意見などを伝えることが難しい場合には、利用者の表情などを観察し、思いを汲み取り、検討して支援している。玄関に意見箱を設置しているほか、家族から意見や要望が聞けるように、職員は運営推進会議や来訪時に声をかけて話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、管理者は職員と年2回以上個別面談を取り入れて意見や提案を聞くことができ、ミーティングの中で利用者本位の支援をしていくための運営を検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	玄関に意見箱を設けている。家族には何でも話ができる関係性作りに努めている。	/	◎	/	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書が変わるときには、必ず説明し、相談等があれば聞きだしている。、家族会などのときに、再度説明するよう心がけている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	意見や要望、提案があれば現場に足を運んでもらい直接話を聴いてもらっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的に個別面談(年2回以上)を行い、意見や提案等を聞く機会をもうけている。基本的に意見や提案が有るときにはいつでも聴くようにしている。	/	/	○	

愛媛県グループホームひまわりの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や目的を理解し、年に1回は評価項目を自分で確認し、ミーティングで話し合っている。	/	/	/	外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画は、市担当者や運営推進会議のメンバー、家族に報告しているが、地域包括支援センターへの報告まではできていない。運営推進会議のメンバーに事業所の取り組みのモニターをしてもらい、意見や助言をもらうことができる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	理解するためにどんな研修が必要なのか把握し、取り組むことができる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標計画を全スタッフに提示しみんなに意識して取り組んでもらうようにしている。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族会で報告や、推進会でも報告し今後の取り組みの意見や助言を頂いている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画をミーティングや運営推進会で成果や状況を話し合っている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	災害別に対応マニュアルを作成しいつでも見れるところにおいている。内部研修、法人委員会でも話し合っている。	/	/	/	事業所では、様々な災害や時間帯を想定して、年2回以上避難訓練を実施している。事業所として近隣施設と連携を図り、災害時の協力体制を整えているが、地域との連携までには至っていない。また、避難訓練時など消防署の参加協力をお願いしているが、連携には至っていない。外部評価の家族と地域アンケート結果から、災害への対応について十分に周知できていないことが読み取れるため、今後は、家族や地域住民に参加を呼びかけて避難訓練の実施や話し合いをするなど、防災への理解と協力が得られることを期待したい。また、管理者は10月末に開催される地域の防災訓練に参加することを考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年に2回、火災避難訓練、1回地震訓練、1回水害訓練を行い、毎回いろいろな時間帯を想定した計画を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に賞味期限の確認、備品、設備のメンテナンス、日常的に避難経路のチェックもおこなっている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近隣の施設とは、緊急時の協力をお願いしている。定期的には推進会で話題になり確認している。消防団にもお願いしている。	x	x	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の研修などに参加し情報は収集している。地域での訓練などの参加は至っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ホームの推進会で事例を報告したり、相談があった場合に助言を行っている	/	/	/	事業所には年2～3回認知症についての相談がある。事業所として、学生の福祉体験の受け入れをしているが、市担当課や地域包括支援センター、他機関と連携して地域活動は十分に行えていない。今後は、地域のイベント開催に合わせて相談窓口を設けたり、他機関と協働して認知症の勉強会を開催したりするなど、少しずつ地域のケア拠点としての機能を発揮していくことを望みたい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	家族さんが、見学などに来られた際に、困っていることや、分からないこと等相談に支援を行っている。	/	x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域の方の訪問も受けたい事を、推進会で伝えてはいるが、そのような機会がなかなか持てていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学生などの職場体験や、ボランティアなどの受け入れをしている。(コロナ感染予防の為中止している。)	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	近隣の施設や学生の福祉体験などで交流を持っている。令和元年7月と10月は福祉体験で交流持つことが出来た。ボランティアは10月まで来られた。現在コロナ感染予防の為中止となっている	/	/	△	